

園内環境を見直す 7つのポイントと工夫

生活の場としての園の役割が大きくなる中、
新年度に向けて園の保育環境を見直すヒントをご紹介します。



「子ども視点」で保育環境を見直す

どんなところに気を配れば、子どもが落ち着いて過ごしながらも、主体的に活動することができる環境になるのでしょうか。保育環境に関するアドバイザーも務める早稲田大学准教授の佐藤将之先生にお話をうかがいました。

保育環境を考えることが保育理念の実現に近づく一歩に

「子どもに対する思い」は 保育環境に表れる

保育環境の改善は、保育の質を高めるための欠かせない取り組みと言えます。保育環境を考えることは、どのような子どもを育てたいかという保育の理念を再考し、子どもに対する思いを見つめ直すきっかけになるからです。

保育環境はどの園でも多少なりとも課題を抱えているものです。建物や設備の事情によって制限される面もありますが、そこを工夫やアイデアによってカバーしようという気持ちが大切になります。

さらに保育環境は、子どもが落ち着いた気持ちになれるか、また主体的に活動できるかといった「子ども視点」で検討することが何より大切

です。しかし意外と、管理する側、すなわち保育者の都合で環境がつくられていることも多いものです。保育環境を見直す際は、「誰のための環境か」をよく考えることが大切だと思います。

環境づくりで心がけたい 7つのポイント

次に、保育環境を見直すうえで心がけたいポイントを説明します。

① 現在の環境を見直して評価する

例えばスウェーデンでは、さまざまな活動スペースの写真を並べて貼り、子どもたちにひとり1票でお気に入りの場所を投票してもらっています。投票用紙は、クリップに名前をつけたもので、いいと思った



早稲田大学
准教授
佐藤将之

さとう・まさゆき

◎早稲田大学人間科学学術院准教授。江戸東京博物館委嘱子ども居場所づくりコーディネーターなどを経て現職。専門は、こども環境学、環境行動研究、建築計画研究など。共著に「フィールドワークの実践」(朝倉書店)がある。

場所の写真をそれで挟むアイデアです。結果をもとに、保育者は環境について話し合い、改善につなげています。こうした方法などを用いて、子ども視点で環境を検討することが非常に重要だと思います。

② まずは試しにやってみる

最初から大がかりな変更をする必要はありません。小さなことでもいいので、「こうした方が子どもにとってよさそう」といった思いつきを試してみます。失敗したら、直せばいいのです。まずは課題意識をもって環境を見直し、「トライアル・アンド・エラー」の気持ちで取り組みましょう。一人ひとりの保育者が「保育環境デザイナー」の役割をもっていることを忘れないでいただけたらと思います。

③ 予算がなければ「手作り」も

新たな環境を取り入れたくても予算がネックになって難しいという園があるかもしれません。しかし、お金がなくても、身のまわりのものに手を加えることで意外とカバーできるものです。ある園では、畳の大きさほどの段ボールに模造紙や色紙を貼って折り畳める掲示板を作っていました。子どもの活動に役立つのなら、高価さは必要ありません。丁寧さがわかる手作りの良さは、子どもに伝わるものです。

④ 保護者や地域に協力を仰ぐ

ある園で、子どもが「セミを捕まえるための台がほしい」と考えました。そこで休日に父親が集まって木のまわりにオリジナルの遊具を作りました(写真右上)。父親たちが作った遊具なのでいっそう愛着がわきますから、教育的にも意味のある環境づくりとなりました。

子どもの環境づくりでは、保護者だけではなく、地域の高齢者の協力を仰いでいる事例もあります。その

ように環境づくりを通して、保護者同士の関係を深めたり、地域と連携したりすることも可能です。

⑤ 子どもがひとりで過ごせる場所をつくる

これまで保育環境といえば、「いかに子どもがにぎやかに遊べるか」を中心に考えられてきた気がします。これは「集団のための環境」が重視されてきたからだと思いますが、これからの保育では「一人ひとりのための環境」に移行することが重要になります。

ひとりで落ち着いて過ごしたり、泣いたりできる場所があると、子どもが友だちとの距離を調整して自分なりのリズムをつくれます。こうしたスペースは、特別な部屋がなくても、家具などで囲われた場所をつくることも用意できます。

⑥ 「座る」環境を取り入れる

子どもにとって座ることは、落ち着きを取り戻すよいきっかけとなります。いろいろな場所に椅子を置いたり、ちょっとした段差に座れる



約10名の父親が参加して遊具を制作しました。父親同士が仲良くなるという効果もあったそうです。(埼玉県・ルンビニ幼稚園)

ようにしたりして、活動にメリハリをつけられるとよいと思います。

⑦ できれば「食寝分離」を

一般的な住居でも食べる場所と寝る場所は、別々にすることが基本です。しかし施設的な問題で難しいという園もあるでしょう。空間を分けるのが難しい場合は、椅子や机を運んで複数クラスで食べたり、クラスごとに食べる時間をずらすなど工夫してみてくださいはいかがでしょうか。

現場のみなさんへ

◎保育者のみなさんが楽しいと感じることで、きっと子どもたちも十分に楽しさを感じられると思います。ですから、どうかみなさん、楽しんで保育をしてください！保育環境の整備も楽しみながら取り組めば、よりよいアイデアが出てくると思いますよ。

まずは“やってみる”気持ちから!

今日から見直す保育の室内環境

早稲田大学准教授の佐藤将之先生の7つのアドバイスに沿って、実際に園で行われている工夫をご紹介します。
自園の園内環境の見直しのヒントにいただければ幸いです。



1 まずは試しにやってみる

普通の保育の中での気づきやちょっとしたアイデアを形にしてみましょう。



写真は、埼玉県・認定こども園こどものもり

通路やデッキにいろいろな種類の観葉植物を置き、居心地のよい空間に

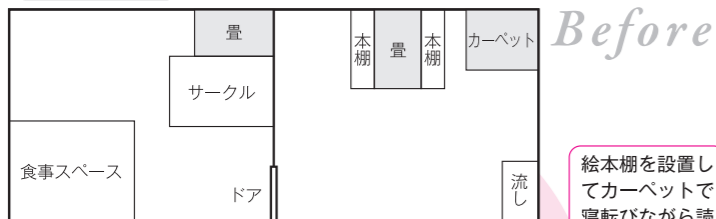
効果▶自然にふれることで情緒、感性を育てることが目的です。園庭に植えている木や植物の他にも、さまざまな種類の植物にふられる環境をつくり、季節感や育てる体験を通して、自然の大切さを伝えていくというねらいもあります。

実施のポイント▶屋外だけでなく、屋内にも植木鉢や草花などを飾ることで、室内環境の雰囲気の変化し、心が落ちついたり癒やされたりする効果が生まれます。

2 現在の環境を見直して評価する

子どもの視点から保育環境を見直し、ときには大きく室内の配置を変えてみるのもよいでしょう。

0歳児・4月

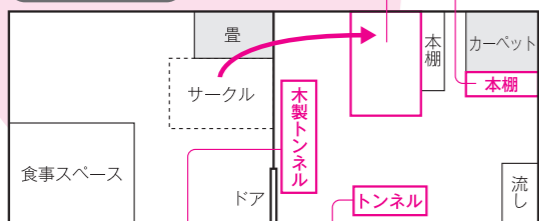


Before

絵本棚を設置してカーペットで寝転びながら読めるように

サークルを移動し低月齢児の活動場所を確保

0歳児・9月



After

木製トンネルを新設してハイハイで隣室に行けるように

段ボールで作った可動式のトンネルを設置

※ここでは保育室のレイアウトや物の配置変更の一部を抜粋してご紹介しています。

発達に合わせて物の配置を見直し、子どものやりたいことを実現できる環境に

効果▶0歳児は特に発達が著しいので、毎月子どもの様子を細かに見ながら少しずつ変えています。子どものやりたいことや欲求をつかみ、それに応じた環境を用意することで、子ども自身の意欲を大切にできます。気持ちが安定した結果、無用なトラブルが減り、ケガが少なくなるといった効果があったといいます。

実施のポイント▶東京都千代田区立いずみこども園では、0歳児の毎月のカリキュラム表の中に、保育室のレイアウト図を入れています。子どもの発達を踏まえて、その月に変えたところや重点的に見ていきたい場所などを書きこんで、保育者間で共有しています。また、成長や発達にあわせて遊びやおもちゃをあらかじめ用意し、「この遊びに飽きてきたようだ」「もっとつかまり立ちしたいみたい」など変化が見られたら、物の配置を変えるなどの工夫をしています。

3 予算がなければ「手作り」も

大がかりなものでもなくとも構いません。少し生活空間を区切るだけでも、周囲とは違った空間をつくり出せます。



写真は、千葉県・市川市立大洲幼稚園

手作りの読み聞かせ用ボードで、よりお話に集中できる

効果▶絵本の読み聞かせのときにボードを立てることで、物語の世界に集中して入り込みやすくなります。配慮が必要な子どもにとってもよい効果があります。絵本だけでなく、制作の際の見本を見せるときに使っても、子どもの視線を集めやすくなります。

実施のポイント▶軽い素材がおすすめです。板で作ると出し入れが大変ですし、倒れたときに危険だからです。段ボールだと持ち運びしやすいでしょう。絵本の世界が引き立つように、布の柄はあまり大きくないものがよいようです。

地域の方も巻き込んで、子どもの目線に合った棚を手作り

効果▶子どもが自然物にふれるためのコーナーを手作りする園もあります。サイズなどが思いどおりにできること、子どもの様子などを見て考えるため、子どもの発達や興味に合っていること、またコストが安いことなどは手作りならではのメリットです。

実施のポイント▶棚が転倒しないように、裏側はベンチにして補強するなど十分な配慮が必要です。多くの園では木工が得意な人はそれほどいないかもしれませんが、保護者や地域のボランティアのかたの力を借りるなどして全員で協力して作るとよいでしょう。



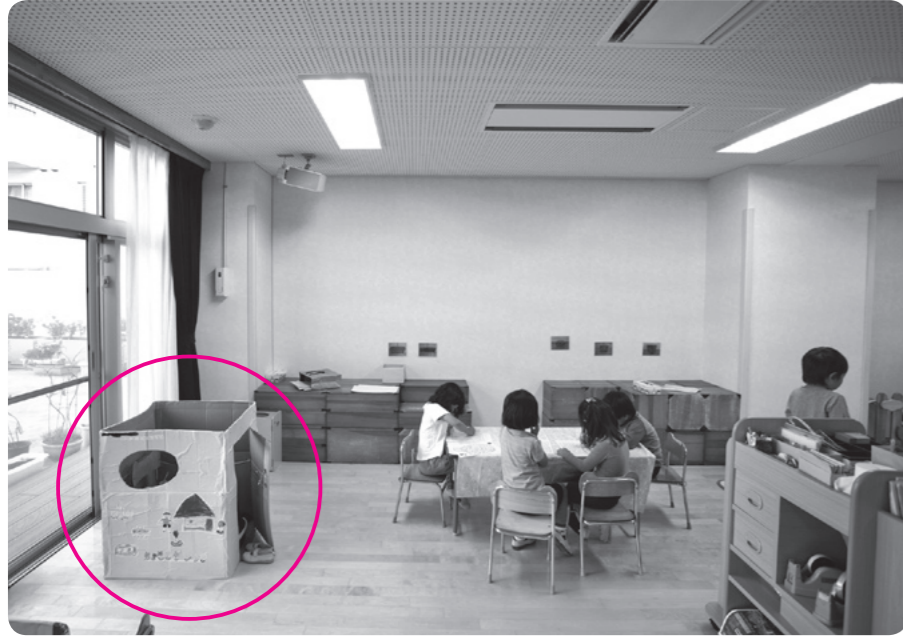
写真は、東京都・江東区白河かもめ保育園

4 保護者や地域に協力を仰ぐ

P.17 でご紹介している埼玉県・ルンビニ幼稚園の内容をご覧ください。

5 ひとりで過ごせる場所をつくる

ひとりで過ごせる場所があると子どもが落ち着いて過ごせます。



写真は、東京都・品川区立御殿山幼稚園



段ボールで「おうち」を作り、全体の活動から距離を置く時間を

効果▶ 集団から少し離れた場所にひとりになれる場所があると、子どもは何か集中したり、気持ちを静めたり、ときには泣いたり、そのときの気持ちに合った過ごし方ができます。東京都・品川区立御殿山幼稚園では、1～2人が入れる段ボールで「おうち」を作り、お絵描きやパズルなどにひとりで集中して取り組みたい子どもが家の中で遊んでいます。集団生活の中でひと息付ける場をもてるようにと願って作りました。特に預かり保育の子どもは時間が長いため、ひとりで過ごせる時間も大切だと考えていると園長先生は言います。

実施のポイント▶ 最初、窓がないおうちを作りましたが、完全に隔離されるのは嫌なのか、なかなか子どもが入ろうとしませんでした。保育者が段ボールを切って窓にすると、喜んで入るようになったそうです。友だちの息づかいが感じられるような距離感で設置するのがポイントです。

6 「座る」環境を取り入れる

活動の合間に「座る」ことを取り入れることで、他の活動から気持ちを切り替えるきっかけになったり、落ち着いたりすることができます。

「座る」場面を取り入れて活動にメリハリを

効果▶ 活動の合間に「座る」場面を取り入れることで、他の活動から気持ちを切り替えるきっかけになったり、落ち着いたりすることができます。また一人がけの椅子や2～3人がけのベンチを置くことで子ども同士の新たなかかわりも生まれます。

実施のポイント▶ 園庭のいろいろな場所に椅子を置くことによって、子どもがひと息ついたり、活動にメリハリを付けることができます。また、四方を囲む形で本棚を配置し、テーブルと椅子を置いて、ゆっくり座りながら読書できるようにしている園もあります。



写真左は、東京都・江東区白河かもめ保育園/写真右は、埼玉県・認定こども園こどものもり

7 できれば「食寝分離」を

設備にもよりますが、「食寝分離」が理想です。食事のひとときの雰囲気づくりも心がけたいですね。

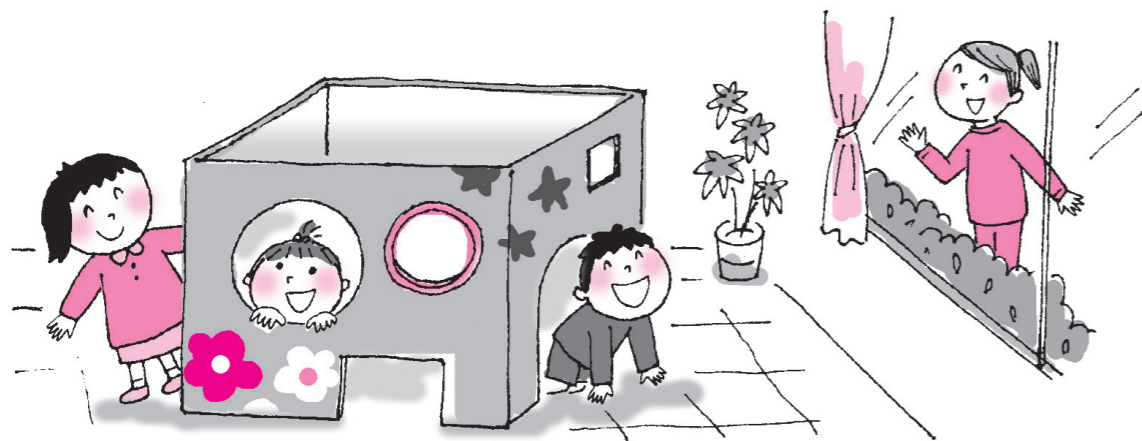


写真は、埼玉県・認定こども園こどものもり

ゆっくりとくつろいで食べられる空間づくり

効果▶ ランチルームのテーブルにはクロスをかけて、季節の野の花を飾り、食事中はオルゴールの演奏曲を流しています。ランチルームで食べることで、それまでの活動から完全に気持ちが離れて食べる心の準備ができるようです。

実施のポイント▶ ざわざわしがちな食事の時間ですが、保育者が「オルゴールが聞こえるくらいのお話して食べようね」と会話の音量を抑えられるよう声をかけています。また、その日の体調に応じて自分の食べられる量を調節できるビュッフェスタイルで、おいしく食べたり、楽しく食べたりする雰囲気づくりを心がけています。



読者からのアイデア集

全国の園長先生から寄せられた
「保育環境」の工夫を
ご紹介します。



ひとりで過ごせる場所をつくる

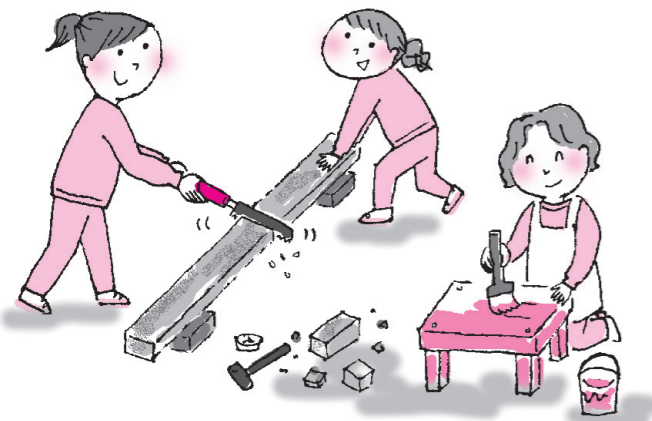
- ベッドやボックスでついたてをつくり、ひとり遊びがゆっくりできる空間を確保したところ、よくお友だちにかみついていた子が落ち着きました。
(大阪府・私立保育園)

くつろぎ、落ち着く工夫

- 「静」の遊びと「動」の遊びの場所を明確に分けてメリハリをつけています。
(愛知県・私立保育園)

「座る」場面を取り入れる

- 保育室にソファやベンチを置いています。パーティションの代わりになりますし、「自由に座る」「並んで座る」などと座り方を変えると新たな人間関係の場ができます。
(静岡県・私立保育園)



自然とふれ合う工夫

- できるだけ園外散歩に出かけ、季節の草花、果実をとってきて保育室に飾りました。自然を紹介するコーナーをつくり、ままごと遊びや絵本も充実させました。
(三重県・公立保育園)

「食寝分離」を進める

- 寝・食・住の部屋を分けました(ホール・ランチルーム・保育室)。また押し入れを活用したりラックススペースやトラブルを話し合うピーステ이블を設置しました。その結果、子どもの生活のリズムが整い、保育がスムーズになりました。保育者にはトラブルを落ちついて話し合う姿が見られるようになりました。
(長崎県・私立保育園)

予算がなければ「手作り」も

- 大きな部屋で0歳児と1歳児を合同保育していましたが、危険な場面が見られたため、分けることになりました。100円ショップやホームセンターで木材などを購入し、職員たちで大工仕事をして0歳児室・1歳児室に分けて保育をしています。仕切りは互いに部屋がのぞけるようにしました。
(宮城県・私立保育園)

園内環境を見直すための
「チェックシート」

◎深く悩まずに直感でお答えください。
◎園内研修などにもぜひご活用ください。

◎自園の園内環境を振り返り、よい点や改善点などを把握

これは、佐藤将之先生のお話をもとに編集部が作成した、「子ども視点」で園内環境を見直すためのチェックシートです。自園の園内環境のよい点、改善点を把握し、園内

環境をよりよいものとするためにご活用いただければ幸いです。

チェックの際は、園長だけでなく、保育者と一緒に行うことをおすすめします。各保育者が保育の中で

改善したい点が出てくることもあるでしょう。チェックシートの各項目を題材に会話することで、園長の保育観や経験を保育者に伝える研修の場になるでしょう。

チェック内容	自己評価	
① 保育理念を環境設定に反映しているか	<input type="checkbox"/> とてもしている <input type="checkbox"/> まあしている	<input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> まったくしていない
② 毎年、少しずつでも園内環境を変えているか	<input type="checkbox"/> とてもしている <input type="checkbox"/> まあしている	<input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> まったくしていない
③ 「子どもが好きな空間」を保育者が理解しているか	<input type="checkbox"/> とてもしている <input type="checkbox"/> まあしている	<input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> まったくしていない
④ 子どもの目の高さを考慮した環境設定にしているか	<input type="checkbox"/> とてもしている <input type="checkbox"/> まあしている	<input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> まったくしていない
⑤ 保育者と一緒に園内環境について話したり、見直す機会があるか	<input type="checkbox"/> よくある <input type="checkbox"/> まあある	<input type="checkbox"/> あまりない <input type="checkbox"/> まったくない
⑥ 子どもがひとりで落ち着いて過ごすことができる環境があるか	<input type="checkbox"/> とてもある <input type="checkbox"/> まあある	<input type="checkbox"/> あまりない <input type="checkbox"/> まったくない
⑦ 食べる空間(時間)と寝る空間(時間)が分けられているか	<input type="checkbox"/> よく分けられている <input type="checkbox"/> まあ分けられている	<input type="checkbox"/> あまり分けられていない <input type="checkbox"/> まったく分けられていない
⑧ 保育者や地域の人材の得意分野を生かした環境設定をしているか	<input type="checkbox"/> とてもしている <input type="checkbox"/> まあしている	<input type="checkbox"/> あまりしていない <input type="checkbox"/> まったくしていない

●上記のチェック結果を踏まえ、よい点と改善したいことの傾向をご記入ください。

●今後、自園の室内環境を改善していくために取り組みたい具体的な行動をご記入ください。

※このチェックシートは、本誌16～17ページに登場いただいた佐藤先生のお話をもとに編集部が整理したものです。